

35. ^{はくさんぜんじょうどう}白山禅定道—^{かがぜんじょうどう}加賀禅定道

—^{えちぜんぜんじょうどう}越前禅定道

—^{みのぜんじょうどう}美濃禅定道

選定箇所：尾添～白山山頂（石川県白山市）、平泉寺～小原峠（福井県勝山市）、石徹白～白山山頂（岐阜県郡上市）

概要：古代から人々の信仰の対象となった白山山頂（^{ごぜんがみね}御前峰、標高2,702m）と登拝道の起点である加賀・越前・美濃の里宮とを結ぶ道は「禅定道」と呼ばれ、天長9年（832）に開かれたとされる。禅定道沿いにはかつて信仰の対象となった仏像を納めた諸堂社・^{しゆく}宿（宿泊施設）跡が残されている。禅定道の大部分は、現在も登山道として活用・保全されている。

加賀禅定道は、石川県白山市三宮町の^{しらやまひめ}白山比咩神社から同市中宮の^{けがさ}箭笠中宮神社を経て、^{ひの}檜新宮跡、^{あまいけきんけんぐう}天池金剣宮跡を経て^{よつづか}四塚山へ至り、^{だいなんじが}大汝峰山頂を越えて白山山頂（^{おぞう}御前峰）に至る。選定区間は、白山市尾添から白山山頂までである。尾添からは、尾根沿いの登山道となり、夏修行の拠点となった檜新宮跡や天池金剣宮跡、巨大な積石塚である四塚などの遺構を見る事ができる。

越前禅定道は、平泉寺から法恩寺山を越えて白山伏拝に至り、ここから小原峠を経て、石川県白山市白峰一ノ瀬に着く。一ノ瀬からは、六万山を経て室堂平に達し、御前峰に登拝する。越前禅定道は、勝山市平泉寺町平泉寺から小原峠までが選定され、道に接して関連する遺構が良好に残っている。

美濃禅定道は、岐阜県側から修行の到達点である禅頂（白山山頂）を目指す白山信仰の歴史にもとづく道である。現在は白山国立公園内の登山道として引き継

がれており、道中には国の特別天然記念物である石徹白の大スギや、修行のための行場や宿泊所を兼ねた室跡、泰澄大師等の伝説を秘めた地名などの旧跡が残されている。



越前禅定道（法恩寺山）



美濃禅定道（銚子ヶ峰から望む別山）